

## 訂正とお詫び

『統合失調症の治療ポイント』に下記の誤りがありました。  
訂正してお詫び申し上げます。

株式会社 創元社

### 232 ページ

(誤) 左から 3 行目と 4 行目の間が 1 行抜けている



(正) 「通院とカウンセリングを開始しました。」  
を入れる

なお、修正したページは次ページよりご確認ください。

の例でもわかると思います。

続いて「今の病院は薬物療法だけで、全然良くならないどころか悪化してきている」「カウンセリングなど他の治療法があるのでは？　ここでやってほしい」と訴えるので、〈今の主治医が一番の責任者だから、その主治医と良く相談し、その主治医が、ここでカウンセリングを受けてもいいと言うなら会ってみましょう〉ということになりました。

### 「本人の登場（家族による性急な退院、治療契約、自発性のなさ）」

一週間後、Lは家族に伴われて来院しました。Lは、無表情でほとんど自発性がなく、こちらの質問にも、ほとんど答えられませんでしたが、たまたま、かろうじて「声がなくなってほしい」（幻聴のこと）との発言は出て来ました。

両親の話によると「主治医から『他でカウンセリングを受けるんだったら退院してほしい』と言われて、退院のほうを選んだ」ということでした。驚いた筆者は、三者に自殺の危険可能性を説くと共に、自殺をしないという約束を本人とし、また外来やカウンセリングだけでやれるかどうか分からないこと、入院の必要性が生ずるかもしれないこと、とりあえず家族が目を見守ることを了承してもらい、通院とカウンセリングを開始しました。

### 【解説5】

このような思いがけないことは、臨床で稀ならず生ずることがあり、この時は前記のような説明と指示が必要です。統合失調症患者の自殺リスクは高いので注意する必要があります。